

税務調査の流れと対応②

週刊税務通信2019年8月5日号No.3567「税務調査を乗り切るポイント」愛知吉隆著より

調査官の質問に対してどう対応すべきか

(1) 調査官からのよくある質問

- ①会社の歴史や沿革 ②役員の構成や血縁関係 ③商製品・サービスの特徴・業績
- ④会社内の組織や責任体制 ⑤関係会社との取引 ⑥帳簿組織・コンピュータの使用状況
- ⑦社長の家族構成・趣味・交友関係 ⑧主な取引先、金融機関
- ⑨過去の調査で修正に至らずとも指導された事項の処理

調査をスムーズに進めるためには

(1) 質問されたときに気を付けることは？

- ①帳簿などの客観的資料に基づき説明する
- ②現場の内容を最も理解している人に正しい説明をしてもらう
- ③すぐに説明できないときはその旨をしっかりと返答する

(2) 指摘されたときどうするのか？

- ①調査中の単純な誤りには抵抗せず素直に認める
- ②主張すべき指摘には証拠資料を基にしっかりと説明する
- ③納得いかない指摘には安易に妥協しない

(3) 調査官はどんなことを嫌うのか？

- ①会社の税務調査の窓口がはっきりしていない
- ②依頼した資料がなかなか出てこない
- ③質問に対する答えがなかなかかえってこない、ころころ変わる

調査の結論をどのように導き出すか

(1) 税務署の指摘事項

①事務手続きの誤り ②会計処理の誤り ③事実に対する調査官との認識の違い ④税法などの法令の適用についての誤り ⑤会計処理手続きの不備 ⑥仮装・隠ぺいしている

(2) 納税者の納得

- ①税務署の見解に対する確認 ②納税者からの説明・主張 ③指導事項への依頼

(3) 修正申告・更正

【今月の経営格言】 ナンバー2の条件は、能力よりも「キレイな心」。
by 稲森和夫（京セラ会長）

「経営者よりも能力の高い“やり手”社員」と「能力はトップよりも劣るものの、心がキレイでまじめな社員」では、どちらが「ナンバー2」にふさわしいと思いますか？ 中小企業では、前者に会社を継がせると、「積極経営をして経営を悪化」させたり、「傲岸不遜になって社内の雰囲気乱す」ことがよくあります。稲森が考える「ナンバー2」の条件は「人格」です。部下に対する思いやりと、トップに対する思いやりの両方を持つ人物こそ、ナンバー2にふさわしいと考えています。功績や才能よりも「人間として素晴らしい人」であることが、「ナンバー2の条件」なのです。

「図解稲森和夫の経営早わかり」より